

平成25年度県立学校経営予算プレゼン梓事業レビューシート			
学校名	岡山県立興陽高等学校		
事業名	『KOYO 地域貢献プロジェクト』 目指せー未来を拓くひとづくりプランナー（岡山県教育振興基本計画）		
事業の必要性・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他者との絆や社会とのつながりが希薄になった現代において、専門科での学習内容を生かした奉仕活動等の体験を通して、自分が他者の役に立つという喜びを実感することにより、「自己肯定感」や「自己有用感」を高める。 ○ 専門学習の成果を積極的に活用させることにより、学習意欲の向上を図る。 ○ 異世代交流や様々な社会体験を通じて規範意識やマナーの高揚を図り、人間性豊かな地域産業人の育成に資する。 ○ 地域や異校種との連携をすすめ、学校の魅力向上と開かれた学校づくりを一層推進する。 		
事業の概要・進め方	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全校生徒を対象とする研修会によりマナーやボランティアについて学ぶ。 ○ 専門5科の特徴を生かした協働による社会貢献活動の研究・研修・開発・実践を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 1 5科レンジャーによる取り組み <ul style="list-style-type: none"> 各科1人ずつ5人グループで依頼のあった高齢者宅へ出かけ、5科の特徴を生かした支援を行う。活動例（農業科：家庭菜園の管理、農業機械科：農具の手入れ、造園デザイン科：庭木の剪定、家政科：宅配弁当、被服デザイン科：衣服の補修） 2 学科協働による取り組み <ul style="list-style-type: none"> 農業科・家政科 両科の協働により米粉品種の栽培と米粉レシピの開発を行い、レシピ集として地域へ還元する。 農業機械科・造園デザイン科 校内バリアフリー庭園にベンチ及び看板を制作・設置し、より多くの地域の方へ開放する。 3 その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 家政科 お菓子・弁当の宅配サービスをさらに充実させるために高齢者用レシピの開発を行う。 被服デザイン科 福祉施設ファッションショー交流会を実施するとともに、高齢者用衣服デザインを研究する。 農業科 ファミリー稲作体験の新たなプログラムを開発し特別栽培米の研究を地域に発信する。 農業機械科 福祉施設との交流をすすめ、障がい者にも使いやすい農機具を改良する。 		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 5科の特徴を生かした協働による社会貢献活動の研究・研修・開発・実践 1 5科レンジャーによる取り組み <ul style="list-style-type: none"> 各科1人ずつ5人グループで依頼のあった高齢者宅を年間50戸訪問する。 2 学科協働による取り組み <ul style="list-style-type: none"> 農業科・家政科 米粉レシピの開発を行い、レシピ集を1000部印刷し、文化祭・制作展等において配付する。 農業機械科・造園デザイン科 本校バリアフリー庭園内にUDに配慮した看板、ベンチを作成し配置する。外部の方の来校100組。 3 その他の取り組み <ul style="list-style-type: none"> 農業科によるファミリー稲作体験の新たなプログラムを開発し、特別栽培米展示ほ場の設置を行う。 農業機械科による障がい者にも使いやすい農機具を改良する。（1件） 家政科 高齢者用レシピ集を100部印刷し、文化祭・制作展等において配付する。 被服デザイン科 福祉施設ファッションショー交流会（2回）を開催し、高齢者用衣服デザイン（2件）を開発する。 		
実績と成果	<5科レンジャー>・全校生徒対象のボランティア講演会を2回実施 ・5科レンジャーの活動を7月、11月、12月と3回実施、また継続訪問と合わせて計18軒を訪問 ・高齢者に対する今後の活動について民生委員との連携などの見通しができた	事業達成率	80%
	<農業科>・米粉品種の栽培を行い、家政科との協働による米粉レシピの開発 ・ファミリー稲作体験プログラム2回実施 ・特別栽培米の研究結果を地域に発信	事業達成率	100%
	<農業機械科>・ユニバーサルデザインを取り入れたベンチ・テーブルの制作、文化祭にて公開 ・一輪車の改良プロジェクトは障害者施設での実証実験を経て、作業車を製造し、さらに継続中 ・近隣中学校に対して学校設備の修理活動	事業達成率	100%
	<造園デザイン科>・地域に出向いての植栽ボランティアを計8回実施 ・校内バリアフリー庭園への自作看板の設置、来校者数目標を十分に達成	事業達成率	100%
	<家政科>・みやま公園での制作展、文化祭、さんフェアにて米粉利用食品の提供、レシピの配布 ・宅配お菓子・お弁当で、地域のお年寄りのお宅へ宅配（お菓子72軒、お弁当40軒） ・米粉レシピ集の作成・配布	事業達成率	100%

平成25年度県立学校経営予算プレゼン事業レビューシート

	<p><被服デザイン科>・外部向けファッションショーを制作展、福祉施設で計3回実施 ・高齢者用衣服デザインは施設からの要望により身の回り品へ計画変更、クッションカバー、椅子脚カバーを製作・提供</p> <p><生徒会・農ク・家ク・部活など>・野球部…毎週月曜日の学校周辺の清掃 ・和太鼓部…地域の催し等への参加4回 ・吹奏楽部…地域のお祭りでの演奏 ・家庭クラブ…公民館での料理教室参加、支援4回、児童施設・福祉施設への訪問7回 ・インターアクトクラブ…施設訪問、献血の呼びかけや募金活動など ・生徒会…ユニセフへの募金校内呼びかけ、ウォーキング大会を兼ねた児島湖流域清掃活動の実施</p> <p>数値目標に届かなかった項目もあったが、ほとんど目標を上回る活動ができた。また予定していなかった活動まで広がりを見せ、全体としては満足のいく活動ができた。生徒の意識にも「社会貢献」を通して明らかかな変化が見られ、誰かのために何かをすることの喜びや充実感を感じ取っているのがはっきりと分かる。つまり活動に参加した多くの生徒が「やってよかった」と自己肯定感を強めていることが、本事業を通しての最大の成果だと言える。</p>	<p style="text-align: center;">事業 達成率</p>	<p style="text-align: center;">100%</p>
<p style="text-align: center;">今後の課題</p>	<p><5科レンジャー>高齢者宅への訪問は気遣うことが多く、訪問数は増加しなかった。民生委員との連携を取り、気軽に訪問できる体制を整える。 <農業科>木村式自然栽培の研究成果を地域へ発信するとともに、その他の特別栽培米の研究を続ける <農業機械科>農業機械科の技術を活用し、近隣中学校との連携、貢献活動を継続、拡大する。障がい者に使いやすい農機具の改良を継続する <造園デザイン科>今後たくさんの方にバリアフリー庭園に来園していただく為の維持管理と案内標識の充実 <家政科>米粉利用食品の継続研究と、開発製品の普及、PR活動 <被服デザイン科>福祉施設との交流会を継続するとともに、要望品についての研究と開発を行う</p>	<p style="text-align: center;">総合 達成率</p>	<p style="text-align: center;">95%</p>
<p style="text-align: center;">学校自己評価</p>	<p style="text-align: center;">5段階評価</p>	<p style="text-align: center;">5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1</p> <p>各科での活動は授業や教育活動とリンクしているものも多く、農業課での米の栽培研究や家庭課のレシピ開発などは、今後も授業の内外で継続して行う。また5科レンジャーや部活動での貢献活動(和太鼓部や吹奏楽部のお祭りでの演奏など)は今年度の活動を通して地域と学校とのつながりがさらに強化されたため、次年度以降も引き続いて活動を進める。</p>	
<p style="text-align: center;">主管課評価</p>	<p style="text-align: center;">見直しの余地 改善提案等</p>	<p style="text-align: center;">5段階評価</p> <p style="text-align: center;">5 ・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1</p> <p>生徒が自宅以外の家庭に入って活動したことで、生徒自身が想像以上に感じたり、学んだりすることができたと言える。また、5つの専門学科が、日頃の学習成果を発揮して多岐にわたる活動に取り組むことにより、生徒の社会貢献に対する意識が高まり、学校全体での様々な社会貢献活動につながっている。</p> <p>今後も、今回の事業で得られた成果を生かし、地域や各学科・異校種との連携を一層深め、人間性豊かな産業人を育成するとともに地域に開かれた魅力ある学校づくりに取り組み、来年度以降の更なる活動の発展に期待している。</p>	
<p style="text-align: center;">委員評価</p>	<p style="text-align: center;">指摘・指導・助言</p>	<p style="text-align: center;">5段階評価</p> <p style="text-align: center;">5 ・ 4 ・ ③ ・ 2 ・ 1</p> <p>多くのプログラムが企画・実施される中で、多少の差異はあるものの、各々の取組が計画通りに実施され、期待どおりの成果をあげたと判断する。特に、プログラムに参画した3年生には想定以上の効果があったと思われる。また、学校内での連携や地域社会との連携を促進する契機になったことも着実な成果である。今後とも、学校・地域が持つ人的・情報資源を活用し、さらに活発に活動していただけることを期待したい。</p> <p>欲を言えば、教科学習との関連性を踏まえた体系的なカリキュラムとして構造化し、活動に直接参加しない生徒たちへの広がり、年次進行に伴う体験活動や学習内容の深まりなどを企図したプログラムとしての礎が明確に打ち立てられていれば、学校経営予算枠の事業として他校のモデルになる、より素晴らしい取組になると思われる。</p> <p>また、事業の総括として文書化するなど、教職員、生徒における情報共有、次年度への引き継ぎを確実に担保する仕組みを確立してほしい。</p>	